

SPEAK-IPA準アセッサ育成コース

2012年 11月 7～8日

ドキュメントレビューと インタビューとSWR分析

IPA 独立行政法人 情報処理推進機構
SEC 技術本部ソフトウェア・エンジニアリング・センター
プロセス改善ワーキンググループ
委員 穴田 直也

- ドキュメントレビュー
- インタビュー
- SWR分析



ドキュメントレビュー

ドキュメントレビュー

- アセスメントチームは、アセスメント参加者の回答を裏付ける目的で作業生産物のレビューを行なう。
- アセスメントモデルの作業生産物(出力)の例として記述されているものが存在するかどうかだけで判断してはいけない。
- どの程度実装されていたら適切なのかは、事業目標やプロジェクトの目標などを考慮して判断する。

- 下記のケースに弱みはあるか議論しましょう。
- 承認欄が空白のドキュメント

P3.4 ENG004

会議議事録

会議名	iモード携帯によるイントラネット接続定期打ち合わせ	第 2 回	(文書番号)		
日 時	2010年6月15日10時00分 ~12時00分			承	
場 所	D 社第5会議室	作成者	成田	認	認
出席者	D 社 川崎 ワークソフト 千葉、船橋、成田				
議題	1 要求仕様への質問と回答 2 スケジュール上の問題点 3 その他				
配布資料	1 要求仕様に関する質問(連絡票)				
項番	議 事 内 容			処 置	
1	要求仕様への質問と回答(資料1) 別紙質問に対し次の回答があった。 (Q1)本件対象のページ数は何件あるか (A)100ページである (Q2)対象ページの内容はすべてコンパクトHTMLに変換可能なものか (A)簡単に調査したところ不可能なものがある。それらの取り扱いについては、個別に協議する				

(1 / 2)

WS 社 文書フォーム Z01

- 下記のケースに弱みはあるか議論しましょう。
 - 日付を記入すべきところに何も書かれていなかった。
 - 日付の前後関係が逆。

No.	発信		回答		表 題	課 題	回 答
	日付	担当	日付	担当			
31	04/06	佐藤	04/07	山田	自動引き落としデータ作成	仕様書の5.1共通モジュールについて、以下のモジュールは使用しないという認識です。 【名称】	操作実行ログ書込部品 →ログ出力する時に使用します(実行ボタン押下時) 項目名称設定取得部品
32	04/06	田中	04/07	山田	一覧型注文書発行	帳票に出力する項目タイトルについて確認です。 ①項目タイトルは取得した内容を帳票レイアウト	①その方法をお願いします。 ②確認致します。しばらくお待ちください。 ③その方法をお願いします。
33	04/07	佐藤			回収残テーブル	追加項目「分割売上区分」のカラム名が変更になりました。(F01⇒A001) 申し訳ありませんが、仕掛中、完了済みのプログラムへの反映をお願いします。	了解致しました。
34	04/07	佐藤			受注処理	売上計上データ作成時の更新テーブルが足りていませんでした。 ・回収残テーブル ・販売データ仕訳作成日付管理テーブル	お電話にてご連絡を頂いたとおり、左記テーブルのうち回収残テーブル、販売データ仕訳作成日付管理テーブルを更新致します。
35	04/07	佐藤			受注処理	取引明細テーブルの更新仕様に一部間違いがありました。 数量は受注数量ではなく、引当済数量を使用する為、それぞれ計算して更新します。	了解致しました。内部設計書にて修正されているのを確認致しました。

- 下記のケースに弱みはあるか議論しましょう。
 - 別のプロジェクトからコピーされたと思われるリスク一覧表

インタビュー

インタビューの準備

- 誰に何を聞くのか事前に決める。
- 聞く人を間違えない。
- 質問は事前に作っておく。
- アセスメント対象組織の用語を使用する。
- インタビューは時間が限られているので、効率よく質問ができるようにする。
- 役割を決める
 - ファシリテータ
 - タイムキーパ
 - ライブラリアン

- オープニングの例
 - アセスメントチームの紹介
 - アセスメントとインタビューの目的の説明
 - 機密保持についての説明
 - インタビュープロセスを簡単に説明
 - インタビューイにインタビューを開始する前に質問がないか尋ねる

インタビューの実施

- あらかじめ用意した質問をする
- インタビュイーが言っていることをよく聞く
 - そうしないと、無視されたと思ったり、自分の発言が重要ではないと思ったりする
 - 既に聞いたことを再び聞かない
 - あいまいな情報に対してフォローアップを行う
- インタビュイーの回答に対して反応しない
 - その反応がその後のインタビューの回答に影響を与える
- インタビュイーが答えにくそうでも答えを示唆しない
 - 質問を言い換えるか、なぜ答えにくいのか聞く

- 質問に対する回答をメモする
 - できるだけ聞いた言葉どおり記録する
 - 言い換えを避ける
 - 結論を出すことを避ける
 - 推論を避ける
 - 言葉以外の様子も記録する

- グループインタビューは下記の事項に注意する
 - 席を決め、誰の発言か間違わないようにする
 - 声の大きい人が場を支配しないようにする
 - 内気な人も発言できるようにする
 - 脇道にそれないようにする

- インタビューは限られた時間のなかで実施されるので、効率的に行う必要がある
- タイムキーパとしてアサインされたチームメンバは、
 - インタビューの進捗を監視する
 - チームメンバに状況を伝える
- 話が盛り上がっていても状況を伝えることを躊躇しない

- クロージングの例
 - 追加で要請したドキュメントの確認
 - 今後のスケジュールの確認
 - 機密保持の確認

SWR分析

- 強み
 - 当該プロセスの活動において、優れている箇所や、他PJ、組織に展開したほうが有効であると思われる事項
- 弱み
 - 当該プロセスの活動において、不足している箇所、実施してはいるが適切でない箇所、改善したほうが良いと思われる事項
- リスク
 - 弱みが内在することにより、想定されるリスク

- 下記のケースは適切かどうか議論しましょう。

<強み>

- 調査対象プロジェクトではプロジェクト計画書が作成されており、プロジェクト計画書に基づいたプロジェクト管理が実施されている。
- 調査対象プロジェクトではプロジェクト内でデイリーミーティングを実施して口頭による状況確認を実施している。そのため、進捗遅れなどを細かく監視して迅速に対応することが可能である。
- プロジェクトで少々の問題点が発生しても、プロジェクトメンバそれぞれが顕在化させないよう努力し、その結果納期遅れなしに納品できている。

- 下記のケースは適切かどうか議論しましょう。

<弱み>

- 本プロジェクトでは納期目標通りできており大きな弱みはない。

<リスク>

- 開発期間の長い情報通信系開発に対しての管理作業やエンジニア作業（品質マニュアル）が標準として用意され、それに従って全てのプロジェクトが実施している。しかし、比較的期間の短いWEB系開発に対して組織の標準が合っていない部分がある。例えば、各種作成すべき成果物が必ずしもWEB系開発の目的に合っていない可能性があり、開発終了後に改訂しても問題になっていないことからすると無駄な作業となっている可能性がある。

- 下記のケースは適切かどうか議論しましょう。

<強み>

- 要求分析工程でレビューが行われ、設計、開発、単体テストの各工程で仕様どおりに作成されているかレビューされている。
- 要求仕様確認書で仕様を確定し、客先と合意をとって開発を進めている。

<弱み>

- 要求仕様確認書の行間にあたる部分、明確に書かれていない部分は各担当者が解釈して、設計を行っている。この段階で仕様のミスが発生しており、これは後工程のリワークの一因となっている。

お疲れさまでした